

神亀六年己巳、左大臣長屋王、死を賜はり  
し後に、倉橋部女王の作る歌一首

四四一番

大君の命恐み 大殯の時にはあらねど 雲  
隠ります

膳部王を悲傷ぶる歌一首

四四二番

世の中は空しきものと あらむとそ この照る  
月は 満ち欠けしける